

事例7 器楽分野（リコーダー）と歌唱分野を関連付けた題材構成の工夫と指導の展開

○学年 第3学年

○領域・分野・題材名 A表現(1)歌唱・(2)器楽 「思いを音楽で表そう」

○事例のポイント

- ①児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素は、【旋律】である。
- ②旋律に焦点を当て、器楽分野と歌唱分野を関連付けた活動を例示する。
- ③思いや意図と「知識及び技能」を往還させながら音楽表現を高める指導を展開する。
- ④ICT端末を活用し、児童の思いや意図、思考や音楽表現を記録する活動の例示をする。

ICTを活用した主な学習場面

・児童の思いや意図、思考や音楽表現を記録したり、繰り返し再生したりする。

ICT活用の利点

- ①ICT端末を活用し教師の範奏動画を配付することで、児童自身が課題に応じて再生の仕方（途中から見る。繰り返して見る。速度を遅くして見る。等）を決め、主体的に活動することができる。
- ②発表ソフト（SKYMENU Cloud）を活用し、配付したワークシートに思いや意図を書き込んだり、録画した演奏を貼り付けたりすることで、児童の思いや意図、思考や音楽表現を記録に残すことができる。

1 題材名 思いを音楽で表そう（5時間扱い）

2 題材について

(1) 児童の実態

本学級の児童は、進んで音楽に関わり、拍に合わせて体を動かしたり、わらべうたや手遊びうたに親しんだりするなど、楽しみながら音楽活動に取り組んでいる。

児童は、これまでに、旋律の音の上がり下がりが生み出す特徴を生かし、曲想に合う歌い方を工夫してきた。また、リコーダーの学習では、友達同士で演奏を聴き合ったり運指を教え合ったりするなど、意欲的に取り組んでいる。一方で、音楽表現を工夫する過程において、曲全体の印象に基づく漠然な思いをもつことに留まってしまい、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを根拠にしなが、思いや意図をもつことに対して課題が見られる。

(2) 題材について

本題材は、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付き、それらが生み出す曲のよさを見いだしなが表現を工夫し、思いや意図をもつことをねらいとしている。

第1次では、「エーデルワイス」の旋律の特徴を生かして器楽表現を工夫する学習を展開する。器楽を第1次に行くことで、旋律に着目し、それらの特徴を根拠とした思いや意図をもち、表現の工夫につなげることができる考える。一方で、リコーダーの学習を始めて間もない第3学年の児童にとっては、思いや意図をどのように表現すればよいかを考えなが演奏する経験は少ない。そこで、リコーダーの範奏と児童の演奏を比較聴取することで、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについての思いや意図もち、音色や響きに気を付けて演奏する技能を身に付けることができるようにする。

第2次では、「帰り道」の旋律が生み出す曲想を感じ取り、歌詞の内容と関わらせて歌唱表現を工夫する学習を展開する。第1次での学習を関連付けるために、まず、歌詞の付いていない旋律のみの演奏を児童に聴かせ、曲想と旋律の特徴について着目させる。旋律そのものに焦点を当てることで、「エーデルワイス」で習得した知識を生かし、より深い表現の工夫へと結び付けることができる考える。旋律の特徴を理解した上で、歌詞の内容との関わらせることで、さらに思いや意図を膨らませることができるようにする。このような学習を

通して、旋律の特徴や歌詞の内容を捉えた明確な根拠を基にした思いや意図をもち、表現を工夫することの楽しさを味わえるようにしたい。

(3) 学習指導要領との関連について

本題材では、学習指導要領のA表現(1)歌唱ア、イ、ウ(イ)、(2)器楽ア、イ(ア)、ウ(イ)を指導するものとする。

本題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素は、「旋律」である。

3 題材の目標

- (1) 曲想と音楽の構造との関わりなどについて気付くとともに、思いや意図に合った音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。
〈知識及び技能〉
- (2) 旋律を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌ったり演奏したりするかについて思いや意図をもつ。
〈思考力、判断力、表現力等〉
- (3) 旋律の特徴を捉えて表現する学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽の学習活動に取り組む。
〈学びに向かう力、人間性等〉

4 教材について

- (1) 「エーデルワイス」 リチャード ロジャーズ 作曲／佐井孝彰 編曲
- (2) 「帰り道」 若松 欽 作詞・作曲

5 学習指導要領の指導事項と〔共通事項〕との関連及び具体的な学習活動

指導事項	歌唱ア	歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。
	歌唱イ	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付くこと。
	歌唱ウ(イ)	呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けること。
	器楽ア	器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと。
	器楽イ(ア)	曲想と音楽の構造との関わりについて気付くこと。
	器楽ウ(イ)	音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能を身に付けること。
〔共通事項〕	ア	旋律
	イ	全音符
具体的な学習活動	・歌詞の内容や旋律の動きを感じ取りながら聴く。 ・旋律の特徴を生かした表現を工夫する。	

6 題材の評価規準

※丸数字は、全員の学習状況を記録に残す場面

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①知曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付いている。(歌唱・器楽) ②技思いや意図に合った表現をするために必要な、音色や響きに気を付けて、旋律楽器を演奏する技能を身に付けて演奏している。(器楽)	思①旋律を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌ったり演奏したりするかについて思いや意図をもっている。(歌唱・器楽)	態①旋律の特徴を捉えて表現することに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽の学習活動に取り組もうとしている。(歌唱・器楽)

	③[技] 思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けている。(歌唱)		
1 時	①[知] 観察・発言・記述		
2 時		[思]① 観察・発言・記述	
3 時	②[技] 観察・聴取		
4 時	①[知] 観察・発言・記述	[思]① 観察・発言・記述	
5 時	③[技] 観察・聴取		[態]① 観察・発言・記述

実践事例として活用しやすいよう、「事例のポイント」を記載しているが、本来は評価項目となる箇所である。
(P132 評価資料を参照)

7 指導と評価の計画（全5時間）

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動 T：具体的な発問	○指導上の留意点	事例のポイント ◎留意事項
1 次◆「エーデルワイス」の旋律の特徴を捉えた表現を工夫してリコーダーを演奏する。			
1	○曲想と旋律の特徴との関わりに気付き、主な旋律をリコーダーで演奏する。 ・旋律の特徴を捉えながら、主な旋律の範奏を聴く。 ・主な旋律の楽譜を見て気付いたことを発表する。 T：1、2、4 段目と3 段目の旋律を比べて「エーデルワイス」を聴きましょう。 ・旋律を聴いて、気付いたことや感じたことを話し合う。 ・主な旋律を階名唱する。 ・運指や音色に気を付けて、リコーダーを演奏する。	○範奏を聴いたり、楽譜を見たりしながら気付いたことを集約し、全体で共有する。 ○聴く視点を投げかける。 ○階名唱をする際、音の高さに合わせて手を動かすことで、旋律の音の上がり下がり気付くようにする。 ○音の高さによって息の使い方を調整しながら演奏できるようにする。 ○演奏する際は、教師の範奏動画を参考に個人で取り組んだり、ペアやグループで聴き合ったりすることで、指導の個別化を図る。	ポイント① ◎範奏を聴き、楽譜から分かることを基に、【旋律】の特徴に気付くことができるようにする。 ポイント② ◎旋律の特徴を全体で共有することで、第2次の歌唱につなげることができるようにする。 ◎ICT端末を活用することで、児童一人一人に合わせた個別最適な方法で技能の習得ができるようにする。
ICT活用の利点① ICT端末を活用し教師の範奏動画を配付することで、児童自身が課題に応じて再生の仕方（途中から見る。繰り返して見る。速度を遅くして見る。等）を決め、主体的に活動することができる。			

2 本 時	○曲想や旋律の特徴を生かした演奏の仕方を工夫する。 ・ 範奏と児童の演奏を比べて聴き、表現の工夫について考える。 T：どのような表現の工夫がありますか。自分たちの演奏と範奏を比べて聴きましょう。 ・ 様々な表現方法を試し、気付いたことや工夫したことを全体で共有する。 ・ ワークシートに、どのように演奏するかについて思いや意図をまとめる。	○言葉で伝えるだけでなく、実際に演奏する中で、<u>表現の工夫に気付くようにする。</u> ○思いや意図を書かせる際、なぜそう思ったのか根拠も書くようにする。	ポイント④ ◎ICT端末を利用し、考えたことを楽譜に書き込んだり、演奏や言葉を録画したりすることで、思考と表現を記録し共有できるようにする。 ポイント③ ◎思いや意図を言葉で伝え合うことと、実際に演奏することを繰り返しながら器楽表現が高まるようにする。
3	○楽器の音色や響きに気を付けてリコーダーで演奏をする。 ・ グループごとに、曲の特徴を捉えた表現を工夫する。 ・ グループごとに、演奏を発表する。 ・ 各グループの発表を聴き、表現の工夫について気付いたことを話し合う。	○互いの音を聴き合い、息の強さやタンギングに気を付けて演奏できるようにする。 ○グループでの演奏の際には、<u>ICT端末を利用し演奏を録画して聴くことで、思いや意図に合った表現ができているかを振り返るようにする。</u> ○発表を聴くときは、楽器の音色や強弱、息の使い方などに気を付けて聴くようにする。	ポイント④ ◎ICT端末を利用し、自分たちの演奏を聴くことで、表現の工夫ができているかを客観的に振り返るようにする。
2次◆「帰り道」の旋律の特徴や歌詞の内容を生かした表現を工夫して歌う。			
4	○曲想と旋律の特徴や歌詞の内容などとの関わりに気付く、思いや意図に合った歌い方を工夫する。 ・ 歌詞が付いていない旋律のみの演奏を聴き、感じたことや気付いたことについて話し合う。 ・ 曲想の変化を感じ取りながら「ラ」や「ル」で歌唱する。 ・ 歌詞を音読する。 ・ 歌詞の内容と旋律の特徴を結び付けて歌詞唱をする。 ・ 楽譜に示されているアとイの部分の歌い方について考え、ワークシートにまとめる。	○始めに<u>旋律のみの演奏を聴かせ、児童が感じたことや気付いたことを契機に旋律の特徴に着目させる。そのことで、他の旋律にも関心を広げ、楽曲の特徴を理解できるようにする。</u> ○「エーデルワイス」では<u>どうだったかを問うことで、器楽と歌唱を結び付けて考え、学習したことを活用できるようにする。</u> ○歌詞の内容と旋律の動きを関連付けて思いや意図をもたせるようにする。	ポイント① ◎歌詞が付いていない音源を聴くことで、「エーデルワイス」と同じ視点で「旋律」を基に、楽曲の構造を捉えることができるようにする。 ポイント② ◎「エーデルワイス」で習得した知識を活用して、「帰り道」の旋律の特徴について気付くことができるようにする。

5	○呼吸及び発音の仕方に気を付けて、思いや意図に合った歌い方で「帰り道」を歌う。 ・旋律の特徴や歌詞の内容について振り返る。 ・グループごとに思いや意図に合った歌い方を試す。 T：どのように歌いたいかについて言葉で伝え、様々な歌い方を試してみよう。 ・グループでどのような歌い方の工夫ができたかを全体で共有する。 ・全員で「帰り道」を歌う。 ・本題材の振り返りをする。	○<u>グループ内で歌う・聴く担当を決め、様々な歌い方を試す中で、思いや意図に合った息の流れや発音の仕方があることに気付くようにする。</u> ○<u>思いや意図をもって工夫して歌うことで、歌唱表現が高まったことを価値付けるようにする。</u>	ポイント② ◎題材を通して、「旋律」を児童の思考・判断のよりどころとして学習してきたことを振り返り、新たに気付いたことや分かったこと、今後に生かしていきたいことなどを一人一人がまとめることができるようにする。
---	---	--	---

8 本時の学習指導について（2／5時）

(1) 目標

旋律を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつ。 〈思考力、判断力、表現力等〉

(2) 展開

○学習内容 ・ 学習活動 T：教師の発話 C：具体的な児童の姿	○指導上の留意点 ☆評価規準と評価方法
○前時の学習を振り返る。 ・「エーデルワイス」の旋律の特徴について振り返り、リコーダーで演奏する。 T：「エーデルワイス」の旋律にはどのような特徴がありましたか。 C：2段目と4段目は同じ旋律だったね。3段目は、違う旋律の動きだったよ。 C：山の形をした旋律の動きが多かったね。 ○旋律の特徴を生かした演奏の仕方を工夫する。 ・児童の演奏と範奏を比べて聴き、気付いたことや感じたことを話し合う。 T：どのような表現の工夫がありますか。自分たちの演奏と範奏を比べて聴きましょう。 C：1、2、4段目はなめらかに吹いていたので、息の量に気を付けて吹きたいです。 C：3段目の始めは、休符があるから弾むようにタンギングをはっきりさせて吹くといいな。 C：音が上がっていくところは少し強かったよ。低くなっていくところは弱く吹いていたね。 C：2段目の終わりには休符がないから、3段目につなげる感じで吹いていたよ。	○前時に活用した拡大楽譜を掲示し、旋律の動きやフレーズを意識して吹けるようにする。 ○児童の演奏を録音する。 ○表現の工夫に着目して聴くように促す。 ○「なぜそのような表現の工夫がよいのか」を児童に問いかけ、旋律をよりどころに考えられるようにする。 ○「なめらかではなかったらどう感じるか」や「弾まないように吹いたらどう感じるか」など様々な表現を教師が範奏し、旋律の特徴に合った表現の工夫をすることについて気付けるようにする。 ○発表ソフト（SKYMENU Cloud）を用いて、配付した楽譜にどのように演奏するかについて線や文

・気付いたことや感じたことを基に、思いや意図に合った演奏の仕方を試し、ワークシートに書き込む。

・ペアやグループで気付いたことや工夫したことを話し合う。

T: 様々な演奏の仕方を試して、気付いたことや工夫したことを友達と伝え合いましょう。また、リコーダーを吹いて確かめましょう。

C: 1・2・4段目の始めの4小節は音の上がり下がり気をつけて息を伸ばして吹くと、なめらかに吹けたよ。

C: 3段目は、8分休符があるから音を伸ばしすぎないように吹いたら、弾むようになったよ。

・どのように演奏するかについてワークシートにまとめる。

○本時の学習を振り返り、次時の活動の見通しをもつ。

字を書き込んだり、演奏した動画や音声を貼りつけたりすることで、考えや表現を記録できるようにする。

○様々な演奏の仕方を試すことで、息の強さやタンギングの仕方に気付くようにする。

○言葉で伝えるだけではなく、実際に演奏することで、音色や響きに気を付けてどのように演奏するかを考えることができるようにする。

○工夫した表現を互いに聴き合いながら、それぞれの演奏のよさを認め合えるようにする。

☆**思**観察・発言・記述

○思いや意図をもって演奏することで、表現の容や高まりを価値付け、全体で共有する。

9 板書計画

せんりつのとくちょうを生かした
えんそうの仕方を考えよう。

・1・2・4だん目の山がたのせんりつを
なめらかにふいていた。

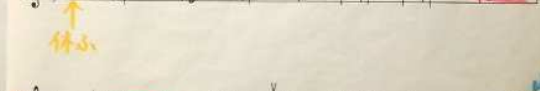
・3だん目は、はすむようにふいていた。

・音が上がるころは、少し強かった。

・2だん目の終わりは、3だん目につなげるように
ふいていた。

エーデルワイス

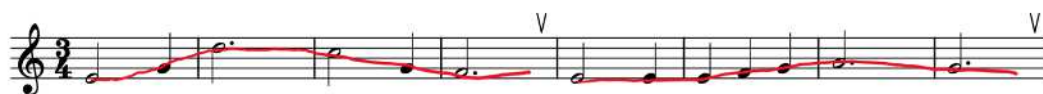
山がた



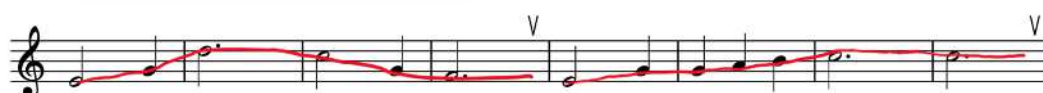
同じ
めりつ
だん目
には
休みが
ある。

10 ワークシート（児童の記入例）と評価例

- 1・2・4 だん目と 3 だん目のせんりつのとくちょうから、どのようにリコーダーをふくか考えましょう。また、その理由も書きましょう。



- ・なめらかに。
- ・つなげるようにふく。



- ・だんだん息を強くする。



- ・はずむように。
- ・レを長すぎないように。



- ・終わりの音を
ていねいにふく。

- 1・2・4 だん目は、

なめらかに

ふきます。

なぜかというと、

2 分音符や符点 2 分音符があるから、音をのばして、4 小節の山がたをなめらかにふきたいです。

- 3 だん目は、

はっきりと、はずむように

ふきます。

なぜかというと、

8 分音符と 8 分休符があるから、音のをばしすぎないように、はっきりとはずむようにふきたいです。

【思①の評価例について】

【「十分満足できる」状況（A）と判断した例】

- ・ 1・2・4 段目と 3 段目の曲想の違いを捉え、旋律の特徴を根拠にどのように表現したいかについて記入している。（上記の児童記入例）

【「おおむね満足できる」状況（B）と判断するポイント】

- ・ 1・2・4 段目と 3 段目をどのように表現したいかについて記入している。
児童の記入例「1・2・4 だん目はなめらかに、3 だん目は、はずむようにふきたいです。」

【「努力を要する」状況（C）と判断されそうな児童への働きかけの例】

- ・ 範奏を聴いて気付いたことを問いかけたり一緒に演奏したりすることで、1・2・4 段目と 3 段目の旋律の特徴に気づき、どう演奏するかについて思いや意図をもつことができるようにする。

11 参考（歌唱分野における具体的な指導例）

事例のポイント②に示すように、器楽分野と歌唱分野を関連付けた指導の展開として、歌唱分野における学習展開を以下のように例示する。

歌唱分野の導入では、「帰り道」の歌詞が付いていない旋律を歌ったり、旋律の演奏を聴いたりしながら、児童が感じ取ったことから旋律の特徴について気付くことができるようにする。その際、「エーデルワイス」の学習を振り返ることで、既習の知識を活用し、旋律から捉えた表現の工夫へと深めていく。そして、曲想を生み出す重要な要素となる歌詞の内容に触れることで、旋律の特徴と関わらせて思いや意図をもつことができるように展開していく。

【第4時】

●旋律の特徴に気付き、そこから歌詞の内容と関わらせて歌唱表現を工夫する場面

○学習内容 ・学習活動 T：教師の発話 C：具体的な児童の姿	○指導上の留意点 ☆評価規準と評価方法
○曲想と旋律の特徴や歌詞の内容などとの関わりに気付き、歌唱表現を工夫する。 ・歌詞が付いていない旋律のみの演奏を聴き、感じたことを話し合う。 T：今から「帰り道」という曲を聴きます。どんな感じがするか考えながら聴きましょう。 C：夕日の中を帰っている時に流れてきそうな曲でした。 C：始めのところは暗い感じがして、途中で明るくなって、最後にまた暗い感じになったよ。 C：始めの部分は落ち着く感じがしました。 ・曲想と旋律の特徴について話し合う。 T：拡大楽譜を見ながら聴きます。感じが変わったところと、思ったところで手を挙げましょう。 T：なぜ、変わったと感じましたか。 C：始めは同じ旋律が繰り返していたけど、途中から違う旋律になったから。 C：途中から音が高くなって明るくなった。 T：歌って確かめてみましょう。先に「ラ」で歌うのでその後、皆さんも歌ってみましょう。 C：始めは旋律が繰り返されていて、途中で変わって、明るい感じになったよ。 C：音が高くなるところは、声をだんだん強くしたいな。 T：それでは、始めの繰り返しがある旋律を$\boxed{ア}$、旋律の動きが変わったところを$\boxed{イ}$、最後の部分を$\boxed{ウ}$としましょう。 T：では、どのような違いがあるか、音符を線でつないでみます。気が付くことはありますか。 C：$\boxed{ア}$の部分は、なめらかだね。$\boxed{イ}$に比べて音が低いよ。 C：$\boxed{ア}$の部分は、山みたいな形。2段目は、真ん中に4分休符があるけど、つながると山みたい。 C：$\boxed{イ}$の部分も始めは山型だけど、最後は音が上がっているよ。 C：$\boxed{イ}$の部分に一番高い音があるね。	○曲名を伝えることで、児童自身の「帰り道」のイメージをもたせ、曲想について捉えることができるようにする。 ○歌詞の付いていない旋律のみの楽譜を掲示することで、「エーデルワイス」と同じ視点で楽曲の構造を捉えることができるようにする。 ○全体的な曲想の変化から「なぜ、そう感じたのか。」を児童に問うことで、アとイの旋律の特徴に着目できるようにする。 ○旋律の特徴に関して言語化するだけでなく、実際に歌ってみることで気付きを深めることができるようにする。 ○旋律線を書くことで音の動きを可視化し、音高やフレーズ、旋律の構成へと理解を深めることができるようにする。 ○児童の発言に対し、適宜「エーデルワイスの旋律の特徴はどうだったか。」を問うことで、習得した知識を活用できるようにする。 ☆$\boxed{知}$観察・発言・記述

・歌詞から場面や様子を想像し、歌詞唱する。 T：では、「帰り道」の歌詞を音読します。どのような内容か考えながら聞いてください。 C：アの部分、は、帰り道の様子を伝えているね。 C：けんかして泣いたところは悲しい感じ。 C：イの部分、は、出会えてうれしい様子が書かれているね。 T：では、歌詞を付けて歌ってみましょう。 …中略… ・旋律の特徴と歌詞の様子を関わせて、アとイの部分の歌い方の工夫を考える。 T：アとイの部分をどのように歌いたいワークシートにまとめましょう。 C：アの山がたの部分はなめらかに歌って、夕日の中の帰り道の様子を伝えたいです。 C：イの部分は、出会えたよろこびやうれしさを表すために、音が上がるときはだんだん強く歌いたいです。	○音読を通して、どのような場面や状況かを想像できるようにする。 ○旋律の動きや音高と歌詞の様子を結び付けて思いや意図をもつことができるようにする。 ☆思観察・発言・記述
---	---